

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用

項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	やすらぎ苑山形
(ユニット名)	べにばな
所在地 (県・市町村名)	山形市松波一丁目11-8
記入者名 (管理者)	紺野 和子
記入日	平成 20年 9月 16日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が地域の中で、楽しい生活が送れるような理念で取り組んでいる。	個人が地域の中で暮らし易くをモットーに行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は目の届く所に掲げてあり、職員全員が再確認できるよう、毎朝唱和している。	理念の共有を図り意識しながら日頃の支援に繋げていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議等で理念の説明を行って理解を得るよう努めている。	今後も、家族会総会や運営推進会議などで説明をし、浸透できるよう取り組みたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時の挨拶はもちろんの事、当苑で飼っている犬を目当てに近隣の保育園の方々やアパートの住人が気軽に立ち寄って頂いている。	保育園児や近隣者(子連れ)犬を見に立ち寄り、又、夏祭りにはのし袋まで持参され知人達と共に歌い楽しんで下さった姿あり、毎年継続していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当苑の行事参加のお誘いはもちろんのこと、地域住人を対象にさわ会を実施し、交流の機会を設けている。	たくさんの方に気軽に参加してもらえるように検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今年より取組だ3ヶ月に1度の茶話会には町内の高齢者の方が参加して下さっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が目を通し、意義を理解し、改善にむけ取り組んでいる。	○	全職員で話し合いながらの評価は難しく今後はどのように評価していくか考え中です。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は3/29、7/12、9/7と実施済み。9月の開催では他施設の利用家族からの質問で臨時集金の件や重度化の質問を受けた。		今後も定期的な開催を行い当苑のサービス向上につなげていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談員の件で役所職員の来苑あり、苑内を見学していただき重度化の問題等を話し合った。	○	来苑の機会をみては、現状の良い点、悪い点を訴えて行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	この制度を利用されている方がおられ後見人よりは家族会で講演依頼し学ぶ機会が多い。		生前にその人の喜びとすることを支援して行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等に参加して学習している。当苑において虐待はない。		今後も研修会等に参加し、学習する機会を設けたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者である苑長やケアマネが入居者や家族の意見等を配慮し行っている。解約した家族で遠隔介護家族には配信サービスは行っている。		料金と入退苑の契約については十分な話し合いの上入居退去いただいている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの意見・不満等は真摯に受け止め、改善にむけてその都度話し合いをしている。		不満苦情などがあればその都度話し合いを行っていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	苑長・ケアマネがまめに各家族に電話連絡をとり、入居者の生活状況を報告している。預かり金の明細も明確にし、家族より定期的に確認して頂いている。		家族遠隔地の方へは、1ヶ月1回程度は本人と家族との電話での会話をさせていただくよう努めている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会又は面会来訪時、声かけにて苦情・改善要綱など話し合っている。10月より相談員制度を設けたことも家族に話したところ。		面会時や電話連絡時等は、意見の有無を必ず聞くように心かけている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社の社長・課長を交えて月1回のミーティングを行い、意見交換をしている。		一日の流れの中での気づきや意見は真摯に受け止め運営者やスタッフに伝え更なる意見を得ている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	月1回の全体ミーティング、各ユニットミーティングはもちろんの事、毎日の申し送り時に念入りな話し合いを行っている。		イベント時は都合つく職員すべてが参加するチームワークが整っている。当苑退職者近隣に在住、快く対応いただいている。 例 ミーティング時はいつも見守りをして依頼している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重視し、極力配置異動は行わないようにしている。		管理者は常時フォローにあたれるよう体制を整えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数などを考慮して、職員個人に合った外部の研修会に参加し、ミーティング等の場で報告し共有のものとしている。		全職員が年に1回は外部研修会等に参加できるように促していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会・相互評価などに積極的に参加し、交流をもつ機会を設ける。		研修会等に参加することでサービスの向上に繋げていく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務より離れ、30分の休憩時間を設け、お茶・お菓子などで気分転換している。		一度職員の旅行を試行したが継続していきたい。利用者旅行等には休みの人も参加してもらい(時間外)共に楽しんでいる。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	3ヶ月に1回の勤務評定を記載している。		その人や仕事を認め心を注ぎながら共に取り組んでいる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	苑長やケアマネが面接を行ったり、当苑に足を運んで頂いて現状を把握し信頼関係を築いている。入居者本人に一度来苑し見学しての入居を原則としている。		環境に慣れるまでは、人員にも気くばりをし、スムーズに流れる方向づけをしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に家族の意向をお聴きし、家族との信頼関係も築けるよう努めている。家族遠隔地に居る場合は訪問介護員に同行し、面会し理解頂いた。		入居にあたり移送に窮していた家族には迎えも可能とし、安心感や信頼感を得ることができた。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急時の申し込み時に満床の場合などは、他サービス機関や他グループホームなどを紹介し喜ばれた。		ショートを受け入れの可能であるが、一度も受け入れ経過なく過ぎている。勉強の為に種々サービスを取り組みたい。
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事・調理・裁縫・清掃などといった家事は、入居者より指導して頂きながら取り組んでいる。		入居者と職員がお互い学びあい、支えあいながら関わりをもっていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	一部の家族は、行事等に参加して頂き楽しんでもらっているが、面会回数が少ない家族とはコミュニケーションが取りにくい。	○	通信や電話連絡などで面会を促し、苑に足を運んで頂けることを第一の課題として努力していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	当苑に入居したことで、本人と家族とのコミュニケーションが少しできたことで、入居前より関係が円満になったケースもある。		遠方の家族には一ヶ月に一度は電話での声に安心感を持ていただく電話サービスをしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の行きつけの床屋などにはできる限り出掛けようとしている。		要求があればできる限り支援していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お互いの居室に行き来したり、入居者同士の交流等が見られる。		個別支援も大事にしつつ、入居者同志の関わり合いも見守っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去した方より、相談を受けた場合は助言しているし、面会なども行っている。(病院訪問等)		退居しても当人のケアマネ、又、家族に連絡しフォローアップに努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から入居者個人の思いや希望を引き出しそれに合わせ支援している。		入居者に無理強いはいしないよう気を付けている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し把握している。		面会など身上をよく知っている人からはさりげなく情報得、参考にしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人記録を密に記入し、申し送りも内容の濃いものであるため、職員全員把握している。		傾聴に心がけ、その会話からの診断も現状把握としている状況である。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン確認時、家族などからは要望を聞いているが、本人・家族などの参加は今のところ行っていない。	○	可能であれば、本人・家族もミーティングに参加して頂けるよう促していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリング、急変時のモニタリングは必要時行っている。		状態の変化が見られた場合は、本人・家族・職員で話し合い、現状に合った計画を作成する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は具体的に記入し、職員が対応した内容も具体的な記入があるため、統一したケアに役立っている。		身体面では実践しやすいが、精神面はレベルの差がありすぎ、対応に苦慮している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共施設などの協力を得ながら支援している	歌、絵、お茶会等のボランティア活動は活発に行われている。避難訓練時には消防署の隊員にも参加してもらい助言頂いている。		絵や歌、菓子作りなど先生及びスタッフは意欲的に取り組み、新たな感動あつたりでその人を知るうえで貴重な時間である。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	情報支援受けることが多い。	○	権利擁護利用者や生活保護の受給者受け入れた為、更なる利用者範囲等を知らなければならない。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員には運営推進会議に毎回出席していただいている。		運営推進会議などで更なる関係を築いていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者は継続したかかりつけ医の診察を受けている方もいるし、やむを得ず当苑の協力医療機関に変更する場合は、本人・家族の同意を得ている。		往診時は個人の様子をこと細かに報告し、精神面について対応して下さる。認知症の方にとってもよく理解協力戴いている。緊急時には昼夜問わず往診に応じて下さっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当苑の隣に位置する相馬脳神経クリニック相馬先生には、職員が気軽に相談でき、認知症についても名医である。		処方内容の点検依頼し、なるべく少ない薬で対応して戴いている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	苑長は看護師で24時間対応できる対応をとっている。		緊急時や重度化は勿論のこと、看護職の職責として、24時間対応心得、就労している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合でも、病院関係者との情報交換を密に行い、退院後のリハビリが必要な場合でも対応できる体制を整えている。		契約では入院14日を超えると退苑とうたっている為、その上での治療方針をお願いしたり、入退苑をあわせている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向の確認をし当苑では、経口摂取困難及び呼吸困難の方は受け入れ困難と話している。		左記以外で週末を経験しているも家族はやはり病院入院希望されたケース多い。高齢終末期は家族の協力が得られなければ対応不可能と思っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	べにばなには終末期の入居者はいないが、そうした場合に備え、かかりつけ医などと連携を取っている。終末期同意書を作成し、場合によっては受け入れていく所存です。		家族の全面的な協力なくしては、介護面だけでなく精神面においてスタッフに負担多すぎると思いき慮していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	サマリー等を活用し情報交換に努めている。		長期に時間経過せぬうちに面会等をし、勇気付けている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	難聴等の入居者には大きな声での支援、対応になっている。	○	人前で恥ずかしい思いをしないよう、声のトーンには十分配慮していく。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	親しみをもち過ごしている。日常会話の中に「あのよ～」と依頼ごとなどが出てき、心の内を理解出来ていく。		個別支援を大事にし、本人の思いの内を言いあらわせるよう傾聴を心がけより良い関係を築けるよう支援していきたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の力量に合った作業(針仕事や清掃、演奏や犬の散歩など)を支援している。		個人の希望に沿えるよう、日常業務での個別支援を重視している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の馴染みの床屋に行き、パーマをかけたりしている。洗顔後の化粧水など肌の手入れも気を付けている入居者もいる。		いつまでも継続していけるよう支援していきたい。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や誕生会等など入居者が食べたい物を聞き出し献立に取り入れている。		日常の中でも入居者の好みを重視し献立に取り入れていきたい。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	行事にお酒を提供している。希望があれば、お酒などは日常的な支援を考慮する。		嗜好品(酒)は待つ楽しみがあっていいので、行事等には今後に於いても酒を好みにあわせて提供して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者全員トイレにて排泄を行っている。清潔保持のため、リハパン・パット私用者は数名いる。		リハパンも夏は綿パンツにパット使用と、こちよさを感じていただいている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室が一つしかないが好きな時間帯を選んでもらうも特に変化なく午後の時間帯となっている。畑仕事で汗した人にはシャワー浴等すすめている。	○	希望・要望があれば夜間でも対応できるよう努力していきたい。冬は入浴剤を入れ香りを楽しんでいただいている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間などは決めず、個人の生活リズムに合わせている。うつ病的な人には7:30の朝食は無理と思い生活していただいている。		その人の習慣や体調を大事にしている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かした日課となる役割や楽しみごとなどですごしている。		洗濯物整頓、清掃、盛り付け、農作業、絵、書、歌やハーモニカ演奏などを職員と共にに行い楽しまれている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができなような入居者はいるが、本人が望まない。ただ数名の入居者はおこづかいを所持している。		お金を所持できている入居者は継続していけるよう支援したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日光浴や散歩、ドライブ、買い物、山の畑、弁当開きなどと戸外での楽しみを提供している。		森林浴や自然にふれることを大切に弁当開きなどをこまやかに実行している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族旅行や外食、遠出ドライブなどの機会を年に数回設けている。		家族と共に日帰り旅行は利用者様の日常を見ていただく為にも継続して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に葉書を書き、近況を報告している入居者もいる。		遠隔地の家族には1ヶ月に1度位は電話にて会話を楽しんでいただいている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問などの規則はなく、ゆっくりと水入らずで過ごして頂きたいため、各居室にお通ししている。		下肢疾患ある家族には面会など、楽なようにと椅子を居室に準備した。(湯茶のサービス含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々、学習に努めている。身体拘束は行わない姿勢で取り組んでいる。		身体拘束0としている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	居室はもちろん、玄関に関しても日中の施錠は行っていない。		玄関前の見守りを徹底している為、施錠せずに済んでいる。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	みんなが集まる食堂・フロアに職員が常時居るようにして見守りを重視し、安全に配慮している。		誰がどこに居ると意識し、認識できるまでにスタッフ訓練できた。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	安全に配慮しながら、保管場所をきめており、自由に使用できるようにしている。(ツメ切りなど)		使用時は見守りを徹底し安全を十分配慮していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対策員を配置し、月1回のミーティング時に報告会・検討会を行い、再発防止に努めている。		緊急時の対応など学習の機会を作っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成しいつでも閲覧できるようにしている。研修会や訓練は不足している。見守り徹底し久しく事故なくすごしている。	○	緊急時の対応や応急手当、初期手当の研修会を専門的な機関を招いて行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を行い、重ねて緊急連絡網の訓練も実施している。地域の方々の協力をもう少し得られるような体制を整えて行きたい。		防火・防災訓練実施時は、地域協力者3名にも参加いただき訓練に向けたい。今年度は年2回の開催を目指して取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	現実を報告し家族の理解を得てその人らしい生活ができるよう工夫している。(低いテーブルですごしたら急激に腰二つ折になった)		歩行時不安定・転倒危険ある人は歩行器を使用していただき本人の安心感を得た。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は、入居者の普段の体調を把握しており、異変には早期発見に努めている。受診・往診が必要な場合は速やかに対応している。		介護職員も熟練し、その人の病態をよめるようになってきている。異変には早期対応で大事に到らぬよう取り組みたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人記録に添付し内容を把握している。変更があった場合は、対応した職員が伝言ノートに記し報告している。		その薬にあり得る副作用など最小限にとどめることに努めている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘がちな入居者には、毎朝牛乳を摂取していただいているも、3日便通がない場合はやむを得ず下剤などで対応している。(朝、冷牛乳で整腸に努めている方もいる)		自然排便を継続出来るよう、食品にも気配りし、体を動かす体操を支援していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアを徹底し、実行している。		家族で週1～2度の来苑あり口腔ケア実施して下さっている方もおられる。義歯などの調整に歯科医の往診いただき改善にむけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は、お茶の時間や食事の時間のみの摂取であるが検査上は不足の方はなかった。本人より要望があれば、その都度の支援は行っている。	○	好きな時に、好きなように飲めるような工夫をし取り組みたい。風呂上りは必ず飲み水飲用いただいている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、閲覧できる。マスク使用や手ぶくろ使用し拡大を防ぐ。		疥癬については、もし疾患があるときは治癒してから入居いただく。今後においては水虫等の入居前の治療をお願いしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具やふきんなどは1日1回ハイターでの漂白を行っている。食材に関しては、在庫は極力控え、こまめな発注を行い新鮮な食材を使用。		手洗いの励行を基本とし、食中毒はあってはならない事であると肝にめいじて取り組んでいる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭(駐車場兼)に犬を飼っており、近所の子供など気軽に立ち寄って下さる。		玄関に入られた方には明るい声掛けを心かけ、靴の着脱には安定感あるよう椅子を準備しております。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ入口のドアがなく男子便器が丸見えだった為カーテンにて目隠しを配慮した。		季節感ある書などを書いてもらい廊下・食堂に展示している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりと好きな場所で過ごせるように、所々にソファを設置しており、仲間同士でお喋りなどを楽しんでいるようです。		最近では廊下のソファは格好の憩いの場になっております。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた大画面のテレビを使用したり、冬季はコタツを設置したりと、ホットできる環境作りに努めている。		家族に馴染みの品について説明するも同意はするが聞くだけで終わりのこと多いため更なる協力を得ていかねばならない。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭わないホームにする為、最大限努力している。夏季は常時窓を開け喚起に努めている。必要に応じエアコンを使用し温度調節している。冬季はストーブヒーターなどを使用している。		脱臭の為コーヒーを時々ドリッブしたりする。オムツは新聞紙に包み使用後は蓋つき容器にいれる。冬季のみトイレに脱臭剤作動させる。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	多少、段差はあるが、つまづいて転倒したケースはなく、逆に階段は機能訓練(リハビリ)につながっているようである。		階段の昇降も当苑ではリハビリとしている。車椅子はなるべく使用しないことを原則としている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その人の出来ることを見極め衣類の着脱、入浴の洗身等できることはしてもらう。依存しがちな人には気持ちよく自発的にやってもらえるような言葉かけをする。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチ・イスを常設しておき、いつでも日光浴できる。鉢植えや花壇への水やりや草とりなどの活動も行っている。		犬小屋が玄関前にあり雨降りでも犬の「太郎」とふれ合いできている。物干し台は夏場外に出し外気浴しながら作業に当てている。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

お花見会・日帰り旅行・夏祭りといったメインイベントには、ご家族、地域の皆様、ボランティアの皆様などをお招きして盛大に開催しております。年間行事活動も充実しており入居者もほぼ全員参加し楽しまれています。外食時の入居者の皆様は「お寿司」がお好みのようです。日々の活動には、ドライブやピクニック（弁当開き）によく出掛け、家族会の協力のもとアイスクリームや団子などのご馳走になっております。あと、以前入居されていたご家族様より畑をお借りし、畑作業にも力をいれてとりくんでおり、種まきの喜びと収穫の楽しみを味わっています。現在は2名のボランティア員のご協力があり、歌・散歩など活動も充実しており、感謝しているところです。3ヶ月に1回の機関誌「千歳会通信」を発行し、家族へ当苑の出来事や近況などを報告させて頂いております。